

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)カネスエ稲沢センター	階数	地上2F
建設地	愛知県稲沢市	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	35人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年1月 予定	評価の実施日	2016年6月6日
敷地面積	13,233 m ²	作成者	杉本 淳
建築面積	6,694 m ²	確認日	2016年6月7日
延床面積	7,061 m ²	確認者	梅原 純一

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE=1.4 ★★★★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.8

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>20.3 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	20.3 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	20.3 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出
 ④地域材の活用
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
2 アスベスト対策								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
3 衛生管理業務								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
1 耐震性								
2 免震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								
2.4 信頼性								
1 空調・換気設備								
2 給排水・衛生設備								
3 電気設備								
4 機械・配管支持方法								
5 通信・情報設備								
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり								
1 階高のゆとり								
2 空間の形状・自由さ								
3.2 荷重のゆとり								
3.3 設備の更新性								
1 空調配管の更新性								
2 給排水管の更新性								
3 電気配線の更新性								
4 通信配線の更新性								
5 設備機器の更新性								
6 バックアップスペースの確保								

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q3 室外環境(敷地内)								
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	建物の比較的高い部分にロゴマークを設けてランドマークとして		4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			2.0	0.30	-	-	2.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	2.0
LR 建築物の環境負荷低減性								
LR1 エネルギー								
BPIm=								
1 建物外皮の熱負荷抑制				-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化								
集合住宅以外の評価(3a.3b)		高効率機器(LED照明)の採用		5.0	1.00	-	-	5.0
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	-
4 効率的運用								
集合住宅以外の評価				3.0	0.29	-	-	3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	3.0
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	3.0
集合住宅の評価				-	-	-	-	-
4.1 モニタリング				3.0	-	-	-	3.0
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	-	3.0
LR2 資源・マテリアル								
1 水資源確保								
1.1 節水		節水型の衛生器具を選定		3.4	0.15	-	-	3.4
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				4.0	0.40	-	-	4.0
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.60	-	-	3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	3.0
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.33	-	-	3.0
2 非再生性資源の使用量削減								
2.1 材料使用量の削減				4.0	0.63	-	-	4.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用				2.0	0.07	-	-	2.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	再生骨材の採用		3.0	0.25	-	-	3.0
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		タイル、ビニル床材		5.0	0.21	-	-	5.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材				4.0	0.21	-	-	4.0
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	更新、解体が容易に出来る構造としている。		5.0	0.25	-	-	5.0
3 汚染物質含有材料の使用回避								
3.1 有害物質を含まない材料の使用		内装材、塗料に関してF☆☆☆☆建材を採用している。		3.6	0.22	-	-	3.6
3.2 フロン・ハロンの回避				5.0	0.32	-	-	5.0
1 消火剤				3.0	0.68	-	-	3.0
2 発泡剤(断熱材等)				-	-	-	-	-
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	3.0
3.0				3.0	0.50	-	-	3.0
LR3 敷地外環境								
1 地球温暖化への配慮								
①		ライフサイクルCO2概算値:76%		-	0.30	-	-	3.0
3.9				3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮								
2.1 大気汚染防止								
燃焼機器を一切使用していない。				3.0	0.33	-	-	3.0
5.0				5.0	0.25	-	-	5.0
2.2 温熱環境悪化の改善								
2.0				2.0	0.50	-	-	2.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制								
3.0				3.0	0.25	-	-	3.0
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25	-	-	3.0
2 汚水処理負荷抑制	独自			3.0	0.25	-	-	3.0
3 交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	3.0
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	3.0
3 周辺環境への配慮								
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								
2.1				2.1	0.33	-	-	2.1
3.0				3.0	0.40	-	-	3.0
1 騒音	独自			3.0	0.33	-	-	3.0
2 振動	独自			3.0	0.33	-	-	3.0
3 悪臭				3.0	0.33	-	-	3.0
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								
1.6				1.6	0.40	-	-	1.6
1 風害の抑制				1.0	0.70	-	-	1.0
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-	3.0
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	3.0
3.3 光害の抑制								
1.6				1.6	0.20	-	-	1.6
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	0.70	-	-	1.0
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	3.0

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
② 資源の有効活用				3.7
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	4.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.12	外構緑化:20.3%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)カネスエ稲沢センタ

計画上の配慮事項	
総合	ローコストを意識しつつ、採用できる環境配慮項目を選別する。
Q1 室内環境	必要最小限の開口部とし、外気の影響を極力受けないように配慮。間仕切り壁は断熱性能の高い材料を採用する。
Q2 サービス性能	天井裏のメンテナンススペースを確保。
Q3 室外環境(敷地内)	外部への騒音、光害対策としてのフェンスを設置。
LR1 エネルギー	高効率機器及び高断熱材料を採用しエネルギーの抑制を計る。
LR2 資源・マテリアル	再生建材の積極的採用を行う。
LR3 敷地外環境	敷地外に従業員駐車場を確保し、路上駐車をなくす。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。